

南信州の畜産振興と地域ブランドの推進

○津野達也、間瀬加奈子、林 陽子、中山 恵、青木一郎
(飯田家畜保健衛生所)

要 約

南信州地域の畜産業は、地域農業生産額では果樹、野菜に次ぐ基幹産業であり、地域の特性を生かした「南信州牛」、各種銘柄豚等地域ブランドの生産に取り組んでいる。家畜保健衛生所（以下、家保）は「第4期長野県食と農業農村振興計画」を軸とする関連事業を活用し、肉用牛肥育農場に対し、信州あんしん農産物〔牛肉〕生産農場認定制度に係る衛生検査を41戸、慢性疾病低減対策を7戸、農場 HACCP 認証取得支援を1戸において実施した。肉用牛繁殖農場に対しては、信州プレミアム牛肉「脂肪の質」向上対策事業による代謝プロファイルテスト及び繁殖性向上支援を3戸、養豚農場に対しては、農場 HACCP 認証取得支援を2戸で実施した。また、地域団体が毎年開催する畜種ごとの畜産共進会での審査員や畜産部会の研修会講師等を担当しており、今後も関係機関と連携し、地域一体となって畜産農家の生産性向上と生産振興を支援し、地域ブランドを推進していきたい。

1 はじめに

南信州は長野県の南端に位置し、飯田市と下伊那郡から成るこの地域は、山間傾斜地が多く、変化に富んだ地勢を活用した多様な農業が営まれている。その中で、畜産業は果樹、野菜に次ぐ基幹産業となっており、「南信州牛」や各種銘柄豚など地域ブランドの産地である（図1）〔1〕。

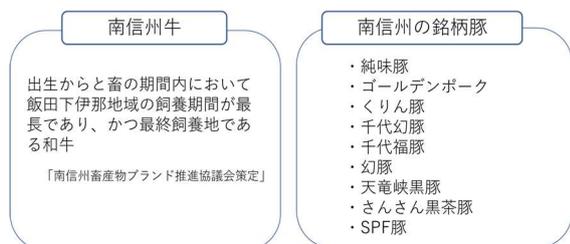


図1 南信州の地域ブランド

家保では、「第4期長野県食と農業農村振興計画」施策体系の「稼げる農業の展開と信州農産物の持続的な生産」に向けて各種事業を活用し、生産農場を支援している（図2）。

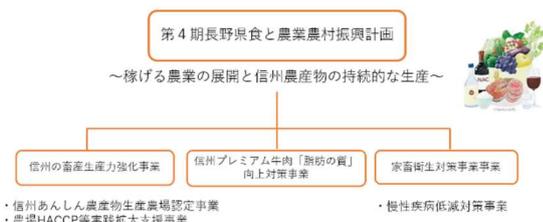


図2 「第4期長野県食との行農村振興計画」施策体系

2 信州あんしん農産物生産農場認定事業

消費者の食卓へ安心な農産物を提供するため、「信州あんしん農産物〔牛肉〕生産農場認定制度実施要領」に基づき、家保は、肉用牛肥育農場の衛生検査や、生産履歴、飼養管理等の確認を行っている〔2〕。

衛生検査の検査項目は、腸管出血性大腸菌（O157）とサルモネラ属菌（届出伝染病に指定されている血清型）であり、農場モニタリングとして牛舎内の牛床、飼槽、給水機周辺、出荷牛モニタリングとして肥育直前の上荷牛から採材した新鮮便を検査対象としている。

管内には、概ね40農場の認定農場があり、農場モニタリング検査及び出荷牛モニタリング検査を合わせて毎年800検体近く検査しており、検査結果はすべて陰性であった（表1）。

表1 衛生検査結果

年度	農場数	検体数		計
		農場モニタリング検査 (サルモネラ検査) (O157検査)	出荷牛モニタリング検査 (O157検査)	
R3	44	648	178	826
R4	41	600	141	741
R5	40	588	254	842
R6*	41	168	46	214

*R6は令和6年12月27日現在の検体数

検査結果：全検体陰性

3 慢性疾病低減対策事業

肉用肥育牛前期、中期、後期の飼料給与状況の把握と枝肉成績改善のため、肉用牛肥育農場7戸を対象として、代謝プロファイルテスト (MPT) を実施した (表2)。

表2 慢性疾病低減対策事業の実施内容

対象農場	肉用牛肥育農場 7戸
対象牛	黒毛和種 肥育牛
対象月齢	約13か月齢、約18か月齢、約23か月齢
検体数	43検体
実施内容	MPT

検査結果では、肥育後期でビタミン A 値 30IU/dl 以下、βカロテン値 10 μg/dl 以下が散見された。ビタミン E 値は概ね 100 μg/dl 以上を維持できており、総コレステロール値は肥育中期以降 130mg/dl 以上であった (図3)。今後は、これらの結果をもとに、飼料給与状況の聞き取り調査を行い、枝肉成績の向上に繋げていきたい [3]。

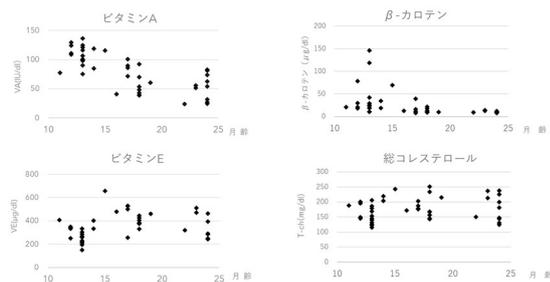


図3 MPT 検査結果 (肥育牛)

4 信州プレミアム牛肉「脂肪の質」向上対策事業

肉用牛繁殖農場3戸を対象として、MPT、繁殖検診を実施した (表3)。

表3 対象農場の概要

農場	A	B	C
経営形態	法人経営	家族経営	家族経営
飼養形態	群飼	繋ぎ	繋ぎ
飼養頭数	87	10	12
支援内容	MPT	繁殖検診	繁殖検診
検討会等回数	2	3	3

A 農場の MPT では、分娩後の泌乳期においてビタミン A 値、βカロテン値の低下が認められた。対策としてビタミン A 製剤を添加したところ、3 か月後にはビタミン A、βカロテンともに改善した (図4)。

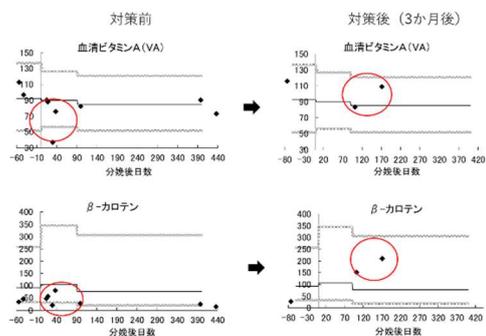


図4 MPT 検査結果 (繁殖牛)

繁殖検診を実施した B 農場と C 農場では、それぞれ、6 頭、5 頭妊娠鑑定を実施し、全頭受胎を確認した。

5 農場 HACCP 認証取得支援

管内では養豚農場2戸、肉用牛肥育農場1戸が農場 HACCP 認証の取得を希望している。この養豚農場2戸は南信州の銘柄豚を生産する農場であり、それぞれの農場概要や取組み動機等は表4のとおりである。家保は各農場の HACCP 検討会に外部アドバイザーとして出席し、主に文書作成の補助を担当した。

表4 農場 HACCP 認証希望農場の概要

農場	X	Y	Z
飼養形態	養豚一貫農場	養豚一貫農場	肉用牛肥育農場
飼養頭数	3400頭	1200頭	250頭
経営形態	有限会社	家族経営	法人経営
取組み動機	6次産業化計画のため 農場全体の把握、 作業のマニュアル化	農場管理	農場管理 作業のマニュアル化
家保の関わり		文書作成補助 HACCP検討会にアドバイザーとして参加	

各農場の取組状況は以下のとおりである。X 農場は、令和2年より文書の作成を開始、家保は延べ56回 HACCP 検討会に参加し、主に文書作成の補助を担当してきた。令和6年12月、長野県畜産会の農場 HACCP 認証支援事業を活用し、農場 HACCP 審査員による構築指導を受け、令和6年度中に認証審査、認証取得を予定している (表5)。

Y 農場は、Z 農場については、継続して取り組み中であり、今後も認証取得に向けて支援して行く予定である。

表 5 X 農場の取組み状況

取組開始	令和2年度より文書の作成開始
HACCP検討会参加者	農場：HACCPチーム責任者1名 外部アドバイザー：畜産関係団体2名、管理獣医師1名、家保1～2名
HACCP検討会開催数(延べ)	56回
農場HACCP審査員による構築指導*	令和6年12月
内部監査	令和7年1月予定
農場HACCP認証審査	令和6年度中

※長野県畜産会事業：農場HACCP認証支援事業

6 畜産共進会

地域団体では、総合的な畜産レベルの向上と産地の均一化を推進するため、年1回畜種部門ごとに「畜産共進会」を開催している(表6)。畜産農家同士が切磋琢磨し、技術を高め合ってきた1年間の成績を審査し、それぞれの区で最優秀賞、優秀賞、優良賞の表彰がある。家保はその共進会の審査員を担当し、審査会、表彰式に出席している。

表 6 令和6年度に開催された畜産共進会

区分	開催年月日	家保職員出席	
		審査	表彰式
山羊	令和6年7月4日	○	○
肉豚枝肉	令和6年10月9日	○	○
肉牛枝肉(和牛)	令和6年10月21日	—	○
繁殖	令和6年12月10日	○	○
酪農	令和6年12月12日	○	○

7 畜産部会(研修会)

地域団体には、畜種毎に生産者を部会員として畜産部会が構成されている。そのうち山羊部会では、年に1回、部会員の飼養技術向上のために研修会を開催している。令和6年度の研修会には、山羊部会員12名、主催者団体1名、家保職員2名が参加し、山羊の削蹄方法や感染症についての研修を行った。家保は研修会時に講師として参加し、主に疾病予防の講義を担当した。

8 今後の展望

畜産業を取り巻く状況は、畜産農家の減少、飼料価格の高騰、世界情勢の変化等厳しさが増している。このような状況の中、畜産物の生産性の向上や安全性確保に関する取組みをはじめとし、畜産農家や関係団体より家保に求められる技術や支援は多岐にわたる。

家保では今後も、生産者、地域団体等の関係機関と一体となり、農場の生産性向上と生

産振興を支援し、南信州産地域ブランドを推進していきたい。

参考資料

[1] 南信州畜産物ブランド推進協議会HP (<https://msgyu.com/>)

[2] 信州あんしん農産物〔牛肉〕生産農場認定制度実施要領(平成30年9月3日付け30園畜第657号長野県農政部長通知)

[3] 生産獣医療システム肉牛編(社)全国家畜畜産物衛生指導協会(1999年3月31日発行)

